

BMW コンセプト 1 シリーズ tii

目次



はじめに	2
BMW コンセプト 1 シリーズ tii	4

注意：このプレスリリースに記載されている車両の動力・装備等の仕様は、
欧州自動車市場に合わせたものです。
他国市場向け製品では仕様が異なる場合があります。

BMW コンセプト 1 シリーズ tii はじめに



特徴

- BMW 1 シリーズ・クーペをベースに、かたくななまでにモータースポーツにこだわったデザイン試作車。
- 古典的な BMW ブランドの価値観を、若々しい感性で再解釈した結果生まれた BMW コンセプト 1 シリーズ tii。
- このクルマのデザインを通じて、モータースポーツに求められる資質を表現。
- BMW が唱える、コンパクトで、軽く、極めてスポーティなクーペ、という伝統を表現したデザイン試作車「BMW コンセプト 1 シリーズ tii」には、BMW がモータースポーツで培った数々のモデルの特徴を惜しみなく注入。
- BMW コンセプト 1 シリーズ tii は、突出したスポーツ性能と若々しさ、BMW1 シリーズの持つキャラクターをさらに強調。BMW 1 シリーズ・クーペの特徴である駆けぬける歓びに焦点を当て、さらに高いレベルへと発展させたデザイン試作車。
- 2007 年だけでも 5 種類ものコンセプト・カーを発表した BMW。その 5 番目となる BMW コンセプト 1 シリーズ tii は、世界をリードするプレミアム・カー・メーカーとしての BMW の能力の高さをはっきりと提示。BMW M3 コンセプト、BMW コンセプト CS、BMW コンセプト X6、BMW コンセプト X6 アクティブハイブリッドに続く BMW コンセプト 1 シリーズ tii は、コンパクト・セグメントにおける最高のドライビング・プレジャーを具現化したクルマ。

エクステリア

- BMW コンセプト 1 シリーズ tii は、そのユニークさとこれまでとはまったく異なるデザインで、運動性能における驚異的な潜在能力を強調。
- 個性的で独特のデザインが与えられたフロント・エアダム、サイド・シル、リア・エアダムによって空力性能を最適化。また、リア・アクスルに大きなダウンフォースを発生させる特製ガーニー・フラップを装備。

- ボンネット、ドアミラー・カバー、フロント両側のエア・インテークに装着されたインレイなどにカーボン素材を採用するなど、一貫したライトウェイト・エンジニアリングによって、さらに俊敏性と効率性を強化。量産モデルと比較して大幅に軽量化を達成。
- スポーティで際立つ存在感と、明確なコントラストを見せ、しかもBMWらしさにあふれたエクステリアとインテリアの配色。ボディ・カラーのアルペンホワイトにダークな色調のカーボン素材が透けて見えるカーボン・ファイバー強化プラスチック(CFP)製パーツを組み合わせ、さらにアクセントとしてブルーを使用。
- BMW コンセプト 1 シリーズ tii には、細部にわたってモータースポーツで活躍したモデルの特徴を多く採用。ボンネットの両側には気流を最適化するフィンを装着し、ボンネットにはコントラスト・カラーによるパターンを採用。ルーフおよびリア・リッドにはそれぞれコントラスト・カラーの装飾ストリップを採用。さらに、レギュレーションに合致するけん引用ブラケットをむき出しで装着。

インテリア

- そのデザイン、配色のコンセプトは、いずれもモータースポーツのレギュレーションを意識した本物のデザインを採用。
- スポーツ・バケット・シートにはヘッドレストおよびサイド・エアバッグを内蔵。3 スポーク・スポーツ・ステアリングとシフトレバー・ノブはアルカンタラのカバー付き。専用デザインのドア・ライニング。運転席側にはドア・ハンドルとアームレストを装備。
- BMW コンセプト 1 シリーズ tii のインテリアにも、コントラスト・カラー（ブラック、ホワイト、ブルー）の配色とモータースポーツから受け継いだ機能や装備品を採用。
- メーター パネルには、とりわけモータースポーツを意識したホワイトのレブ・カウンターを装備。スポーツ・ステアリングには、エクステリア・カラーに対応したホワイト・スポークおよびホワイト・トリムを採用。
- 反射を防止し、ドライバー志向のコックピットのデザインや配置を強調するため、ドア・ライニングとダッシュボードにはダーク・アルカンタラを使用。さらにサイド・サポートおよびグリップ感を向上させるため、シート、ステアリングのリム、シフトレバー・ノブにもアルカンタラを使用。
- 新たに開発した薄型構造の足元スペースにより、インテリアのスポーティさと機能性を強調。

BMW コンセプト 1 シリーズ tii



俊敏で、軽やかで、若々しくて、極めてスポーティ。
これらが BMW コンセプト 1 シリーズ tii の印象であり、特徴でもあります。

2007 年東京モーターショーで世界に向けて初公開される、BMW 1 シリーズ・クーペをベースにしたこのデザイン試作車は、BMW が一貫してスポーツ性能に的を絞って開発を進めた、まさにエボリューション・モデルといえるコンパクト 2 ドア・モデルです。空力性能を最適化させたボディ、車両重量を極限まで削り落とし、前後軸重量配分を最適化させるために採用された数多くの軽量化装備品、熱い心を持ったドライバーのためにあつらえたインテリアなど、このコンセプト試作車は、高いレベルの運動性能を生まれながらにして身に付けています。

非常に高いレベルで凝縮された、ブランドならではのスポーツの遺伝子を持つ BMW コンセプト 1 シリーズ tii には、究極の駆けぬける歓びを提供する BMW のコンパクト 2 ドア・モデルとしての躍動感あるキャラクターが満ち溢れています。

BMW コンセプト 1 シリーズ tii のデザインは、数々の栄光に彩られた BMW のスポーツ・カーの装備や特性をしっかりと受け継いだものになっています。このクルマをひと目見ただけで、1960 年代から 70 年代にかけて街中でもサーキットでも目を見張るほどの成功を収めた歴代の BMW クーペ・モデルを彷彿とさせます。もちろん、この印象は、コンパクトなサイズ、軽量化され完璧な軸重量配分のシャシー、力強く後輪を駆動するパワフルなエンジンによって裏打ちされています。

とりわけ 1966 年に導入された BMW 02 シリーズはこうした成功要因をベースに開発されており、突出した俊敏性とスリリングな走り、高い運動性能のクルマの典型として評価されました。そして今回、同じ開発方針で作られたのがニュー BMW 1 シリーズ・クーペです。この軽く、俊敏で、パワフルなコンパクト 2 ドア・モデルは、他に類を見ない、極めてスポーティーなハンドリングにより、これまでにない走りの体験をもたらします。

この 2 台のモデルには共通のコンセプトが脈打っており、さらに BMW コンセプト 1 シリーズ tii にいたってはそれらが全面的に強調され、40 年前の開発理念が今日にも十分通用することを証明した上で、さらに魅力溢れるスポーツ・モデルとして作り上げることができるということを体現しています。

古さと新しさ：基本原理はライトウェイト構造、結論は CFP

BMW コンセプト 1 シリーズ tii には、古いモデルの持つ視覚的な特徴と、開発・製造における最新のテクノロジーが融合しています。特に車両の基本原則は伝統に従い、製造のプロセスにはハイテク素材やハイテク技術を応用しています。

重量を削減し、調和の取れた軸重量配分を実現するため、BMW コンセプト 1 シリーズ tii にはカーボン・ファイバー強化プラスチック (CFP) 製パーツを採用。ボンネット、ドアミラー・カバー、フロント・エアダムの左右にあるエア・インテーク部分のインレイ、リア・リッドに装着されたガーニー・フラップ、リア・バンパーに埋め込まれたインレイは、極めて軽量かつ非常に丈夫な CFP 素材を採用しています。

遠目から見ると CFP 製パーツのところはブラックに見えますが、近くに来ると細かな炭素繊維構造につや消しのクリア塗装が施されていることがわかります。深い色合いの CFP 製ボンネットは日光の反射を抑え、ドライバーが運転に集中できるようにしています。これと同じ働きをするのが、ウィンドスクリーン上部の幅広の白いサンシェード・バンドです。これによって日暮れ時などの低い角度で差し込む日光にも、目がくらむことがなくなります。

ブラック、ホワイト、ブルー：すべてが BMW 特有の配色

アルペンホワイト塗装と深い色合いの CFP 素材から生まれるコントラスト効果は、実際には機能性を考慮して採用されたものですが、同時に BMW コンセプト 1 シリーズ tii の外見上の特徴ともなる主要なスタイリング・エレメントとしての役割も担っています。このクルマの外観上のアクセントとして、BMW コンセプト 1 シリーズ tii のヘッドライト・ユニットからリア・リッドのエアフロー・リップ、CFP 製の大型ガーニー・フラップまで、ボディの大部分に装飾ストライプを施しています。ボンネット上のストライプはホワイトで、ルーフとリア・リッドのストライプはいずれもブラックです。

この他の視覚的なアクセントとして、あまり目立たない部位に第 3 のカラーを使用しています。ブレーキ・キャリパー、各ホイールの固定用に 5 個あるホイール・ボルトの内の各 1 個、そしてレース仕様のマシンでは通常カバーやキャップで覆われていない、フロント・エプロン内のけん引用ブラケットは、いずれも誇り高きブルーで塗装されています。

黒と白のコントラストに控えめにブルーが加わることで、外観上に三位一体の色の調和が生まれ、自信に満ちた印象と同時に優れたバランスをイメージさせる効果をかもし出しています。もちろん、この配色は BMW ブランド・ロゴに使われているものと共通しており、偉大な伝統を継承していることの証明でもあります。

フロント・エンドのデザイン：隅々まで空力特性を最適化

その配色ばかりでなく車両のデザインにおいても、BMW コンセプト 1 シリーズ tii と市販車仕様の BMW 1 シリーズ・クーペを明確に区別しています。実際、このデザイン試作車のキャラクターやクラスを超えた独自性は、どの角度から見ても一目瞭然です。CFP 製パーツだけでなく、フロント・エアダム、サイド・シルやリア・バンパー、リア・リッドなどは全て新しくデザインされたものです。このようなデザインを施した目的は、車両の空力特性を最適化させることであり、BMW コンセプト 1 シリーズ tii の突出した運動性能を誰もが納得する形で主張しています。

この種のクルマは特殊な要求によって作られるため、通常量産モデルに装備されるエア・ダムなどとは根本的に異なる構造のフロント・エアダムを装着しています。特に迫力ある側面のエア・インテークは内部が CFP で仕上げられており、さらにフロント・エアダムの両側にはいわゆるエア スプリッターが装着されています。気流を整える役割を持つこのやや前方に突き出した空力パーツは一定量の下向きの気流を生み出し、一部をサイドのインテークへ送り、残りをボディ下に流します。

モータースポーツから受け継ぎ、気流を最適化するもうひとつに装備品が、ボンネットに装着された 2 つのフィンです。ボンネットの外側に取り付けられたこのエア・ガイド・パーツは、高速走行時の空力特性を向上させ、高速安定性を強化するものです。この効果の有効性は、すでに 1970 年代半ばに BMW 3.0 CSL が証明しています。

BMW コンセプト 1 シリーズ tii の BMW キドニー・グリルも、専用デザインになっています。BMW 1 シリーズ・クーペやその他の量産モデルのような、BMW キドニー・グリル内側のバーはありません。その代わりに、幅広いハニカム構造のグリルを通して冷却エアが流れ込むようになっています。

このクルマを区別するその他の特徴として、ヘッドライトに取り付けられた暗色のトリム・バーがあります。これにより、BMW の特徴であるクリアガラスに覆われたデュアル・ヘッドライトを強調しています。

サイド・ビュー：クラシックなシルエットと迫力あるデザイン

BMW 1 シリーズ・クーペは、これまで数十年にわたって BMW のクーペを印象付けてきた、特徴的なプロポーションを受け継いでいます。その特徴とは、いわゆる 3 ボックス構造と呼ばれるもので、エンジンルーム、パッセンジャー・セル、ラゲッジ・ルームが明確に区別されています。後方に寄せられたいわゆるグリーンハウスと呼ばれるパッセンジャー・セルとリア・エンドまでなだらかな傾斜で続くルーフ・ライン、最後に切り落としたように終わるテールの処理が、長いエンジンフードとの組み合わせによって、まさに見まごうことのないシルエットを描いています。サイドから見たときの迫力あるデザインのボディと、いかにも軽そうなルーフ構造は、このコンパクトな 2 ドア・モデルに躍動感あふれるスポーティーな外観を与えています。

この BMW コンセプト 1 シリーズ tii をサイドから見たとき、このデザイン試作車のために専用開発されたサイド・シルがさらにスポーティーな印象をもたらしています。このサイド・シルはとりわけパワフルなデザインが施され、後方に行くにしたがって徐々に上昇するような光の輪郭がくさび形のシルエットを形作り、車両全体を低く身構えた姿勢に見せています。

このサイド・シルには、リア・ホイールの直前に円形の開口部が設けられており、このクルマのスポーツ性能を明示しています。こうしたデザインは、空力を最適化していると同時に、見るものの視線をエンジン・パワーを路面へ伝えるリア・ホイールへと向ける効果も併せ持っています。BMW コンセプト 1 シリーズ tii には、このクルマのために特別に開発されたダーク・カラーのクロム・メッキ処理を施した 5 スポーク・デザインの 18 インチ軽量アロイ・ホイールが装着されています。

パーフェクトに気流を整えるリア・エンドのデザイン

空力性能を最適化させることを主な目的としたデザインは、リア・エンドにも反映されています。BMW コンセプト 1 シリーズ tii のリア・エンドのデザインも、ボディ周りを流れる気流を最適化させ、特別な要求に応じた突出した運動性能を得るため専用設計されています。気流を整える目的でリア・リッドに装着された、いわゆるガーニー・フラップと呼ばれる空力パーツは、「量産型」の BMW 1 シリーズ・クーペよりもはるかに大きくなっています。実際、この CFP 製のパーツはその形状においてもサイズにおいても、高速走行時にリア・アクスルに最大のダウンフォースを発生させ、優れた高速安定性を発揮させるために必要な特性を提供しています。

リア・バンパーに組み込まれたインレイも同様にカーボン・ファイバー強化プラスチック製で、その 3 ピース構造はこのクルマのフロント・エンドに装備されたエア・インテークのイメージを反映しています。ディフューザーは 2 本のバーで分割されており、ボディ下を流れる気流を整え、車体後部の気流の乱れを最小限に抑えます。

インテリアのデザインもスポーティ

スポーティな資質とスポーツ性能を反映して、BMW コンセプト 1 シリーズ tii のインテリアも、もちろん純粋に走りを楽しむための理想的な場所としてデザインされています。その印象は、まずエクステリア・カラーに対応した配色が一役買っており、さらにモータースポーツから直接受け継いだ様々な装備品によって強調されています。もちろん、見た目だけでなくマシンを完璧にコントロールするための優れた機能性も提供しています。

エクステリアに採用された黒と白のコントラスト・カラーによる配色はインテリアにも反映されていますが、各カラーの面積の比率は対照的になっています。エクステリアではダークな色調のままの CFP 製パーツ部分ですが、室内では慎重に選ばれた部位だけ、例えば内側のドア・ハンドルやスポーツ・ステアリングのスポーク部分などをホワイトで仕上げています。使用す

る面積は狭いものの、こうした処理によって視覚的な効果としてパワフルさを強調し、その結果これらの装備品は目に留まりやすくなり、また経験的にも良く使う部位であることを強調しています。

インテリアにおいて、ブルーは効果的に使用しています。ドライバーに焦点を当てた装備品に採用し、シートの縫い目やシフトレバー・ノブの底部にアクセントとして取り付けられた装飾リングが、視覚的にも BMW ブランドを象徴するブルーになっています。また、運転席用シートベルトだけは、ブルーになっています。

その他の 3 つのシートに用意されたシートベルトは、全てコントラスト・カラーのシルバーになっており、シートの縫い目もシルバーです。こうしたシートベルトの配色の妙により、車内の 4 つのシートのうちでどのシートが最も魅力的かが自然とわかるようになっています。

ドライバーのために仕立て、駆けぬける歓びのために作る

BMW コンセプト 1 シリーズ tii のインテリア・デザインは、まさにハンドルを握る人のために仕立て上げられたものであり、その理念はモータースポーツにおいても強烈かつ最高の走りをもたらすためのものです。

インテリアに暗色を多用することで、ドライバーの全神経を路面状態や交通状況に集中しやすくしています。A ピラーとルーフ内張りのトリムを彩るアンソラジットは、ダッシュボード、ドア・パネル、サイド・パネルとの一体感を生み出します。

ブラック・アルカンタラで仕上げられたダッシュボードは、BMW コンセプト 1 シリーズ tii のボンネットと同様に反射を防いでドライバーの集中力をサポートします。

メーター・パネルのデザインもモータースポーツに焦点を当てた BMWらしいスタイルを採用しており、白い文字盤に赤い指針のタコメーターは、暗色系のスピードメーターよりも目につきやすいようにデザインされています。

マン・アンド・マシン—つまりドライバーとクルマをパーフェクトに連携させるスポーツ・ステアリングは、握りの部分をグリップに優れたアルカンタラで覆っていて、高速走行時や急激な方向転換においても極めて正確なハンドリングを可能にします。

BMW コンセプト 1 シリーズ tii のシートも、スポーツ走行を考慮して新たに専用開発されました。アルカンタラとレザーのコンビネーション仕上げによるスポーツ・バケット・シートのカバーは、完璧なサイド・サポートを提供します。また、シートにはヘッドレストとサイド・エアバッグが内蔵されています。後部座席も同様のバケット仕様になっており、後席の乗員もスポーティな低めのシート・ポジションを満喫できます。

ドア開口部のサイド・ストリップにはモデル名称があしらわれており、BMW コンセプト 1 シリーズ tii に乗る人を優しく迎えます。足元スペースの内張りは、特に摩耗しにくい丈夫な新開発素材を採用しています。しかも、そのパターンはエクステリアの CFP パーツを思わせる仕上がりになっています。

伝統的な価値と最新のコンセプトを組み合わせ、独自性を強調

外側も内側も、どの角度から見ても、細部まで見ても、BMW コンセプト 1 シリーズ tii ははっきりとしたメッセージを送っています。全ての目的は、妥協を許さない、駆けぬける喜びです。

このデザイン試作車を開発するに当たり、BMW のエンジニア、デザイナー、そのほかのスペシャリストたちは、伝統的な価値感と最新のテクノロジーをいかに融合させるか、という点に尽力しました。その過程において、彼らはニューBMW 1 シリーズ・クーペが提供する最新のコンセプトと BMW ブランドのルーツであるスポーツの資質を利用しました。

こうした特徴を踏まえて完成させたクルマが、BMW コンセプト 1 シリーズ tii です。このクルマは自信にあふれており、中途半端な部分などまるでない、明確な哲学にしたがっています。BMW コンセプト 1 シリーズ tii は、どこに開発の主眼を置いたかを強烈にアピールし、BMW 1 シリーズ・クーペのどの部分がスポーツ・カーとしての潜在能力なのかをはっきりと示しています。

BMW コンセプト 1 シリーズ tii の外観にはモータースポーツの魅力が溢れており、これはまたデザイナーが BMW の歴史からインスピレーションを得た結果でもあります。その顕著な一例として、1960 年代から 70 年代にかけて開発された BMW の 2 ドア・コンパクト・モデルの開発過程があります。これらのモデルは、BMW のブランドとしての発展と企業としての発展に貢献し、他に比べるもののない典型的な駆けぬける喜びを誕生させました。

実際にこうしたモデルは、当時も、そして現在においても通用する、軽量で、パワフルなエンジン、優れた俊敏性という BMW 特有の資質によって成功しました。

この成功の要因は、現在生産される世界中のモデルにも受け継がれています。しかし、時代の流れと共に顧客のニーズは当時とは明らかに違ったものになり、同時に最新のテクノロジーによる可能性も、BMW のモデル・レンジもまた同様に変化してきました。

現在、BMW が製造する自動車のカテゴリーは過去最大となっています。BMW のコンセプトである駆けぬける喜びも、そのカテゴリーに合わせて様々に表現されています。それでもやはり、駆けぬける喜びというコンセプトは常に新たな解釈を取り込み、かつての時代よりも良く知られるようにな

りました。もちろん BMW 1 シリーズ・クーペにも、この重要なコンセプトは脈打っています。他のどんなクルマも提供できないダイナミックな運動性能を持ち、他には真似のできない BMW の伝統と経験を持つスポーティーでコンパクトな 2 ドア・モデル。このモデルの魅力的なキャラクターを最大に発展させ、さらに心を魅きつけるクルマ、それが、BMW コンセプト 1 シリーズ tii なのです。^